

子どもファーム・ネット大賞

吉ヶ沢小

全校8人の自信と宝物に



題字に本物の米を張り付け、季節の作業ごとにカラフルにまとめられた壁新聞

交流会に参加しました…



体験をしてみて、これからもこの豊かな葛巻の自然を笑顔で守っていこうと思いました。(6年・芳田美紅さん)



全国の仲間と笑顔で交流できました。大きな声で話しかけ友達もいっぱいできました。(5年・瀧渡巧くん)



全員で願いを込めて、大きな声を出して頑張れたので賞を取れたと思いました。(5年・瀧篤斗くん)



みんなでチラシを配って岩手の吉ヶ沢小のことをアピールできて良かったと思いました。(4年・上家萌香さん)



東京には今度が2回目で、笑顔で、楽しく交流できました。お米作りも楽しかったです。(4年・芳田愛華さん)

「全国の仲間から選んでもらってうれしい」
吉ヶ沢小学校(佐々木計校長)は、参加している全国子どもファーム・ネット(全国農業協同組合中央会など主催)の壁新聞コンクールで入選。1月30日に東京で開かれた全国交流会の発表会で、参加した子どもたちの投票で決まる「子どもファーム・ネット大賞」に輝きました。新聞は、昨年の4月から全校で取り組んだ米作りについて「大すき米作り」としてまとめたもの。集まった全国の仲間と交流を深め、友達の輪を広げました。全校児童8人の吉ヶ沢小の新たな自信になり、子どもたちの心の宝物が増えました。



ネット大賞でさらに自信がついた吉ヶ沢小の全校児童と先生方

●「子どもファーム・ネット」
子どもが参加している様々な農業体験活動を楽しんでいるグループの活動を応援したり、グループ同士の交流を広げるための全国ネットワーク。平成17年に発足し、本年1月7日現在の登録グループは396。

東京で全国の仲間と交流も

「壁新聞セッション」で活動発表した美紅さんは「賞に入らなくても悔いはありません」と、堂々とした発表に満足げに話していました。発表会では、壁新聞コンクールの発表作品を展示し、全国の仲間と交流しました。吉ヶ沢小は、今年度の壁新聞コンクールで、八十三作品が参加、四十四作品が入選、五作品がネット大賞に選ばれ、吉ヶ沢小は初参加の二年前に続いて二回目の大賞受賞です。



「吉ヶ沢小学校です」と大きな声で活動を発表する5人

米作りで地域交流深め3年



苗が倒れないようにしっかりと植えた「田植え」

吉ヶ沢小は三年前から米作り体験を授業に取り入れています。五年生の瀧渡巧君の祖父で自治会長の瀧渡正吾さん(66歳)の田んぼで、今年度も春の種まきから秋の脱穀まで全校児童八人で行いました。秋には、お世話になった地域の方々に招いて食の感謝祭で交流も深めました。

新聞は三年目の挑戦として、前年に失敗した種まきに再び挑戦した様子や、水の温度、日当たりの様子など条件を変えて植えた苗の様子などを分かりやすく説明しました。また、「千歯こき」や「足踏み脱穀機」などの古い農具を使った作業にチャレンジして知ることができた昔の人の苦労も描かれました。一年を通して子どもたちと一緒に体験をした小野寺民先生は「小規模校だからできることはいっぱいあります」と取り組みの成果に自信をのぞかせました。



鈴木重男町長に、笑顔で「はきはきと大賞受賞を報告する吉ヶ沢小の五人」